平成２９年度　全国学力･学習状況調査における勝山市の結果について

勝山市教育委員会

平成２９年度全国学力・学習状況調査（小学校６年生、中学校３年生対象・４月実施）について、勝山市の児童生徒の結果をお知らせします。

学校と勝山市教育委員会では、児童生徒一人一人の学びの充実を図り、「生きる力」を育てるため、引き続き家庭や地域と連携した教育活動の推進に努力してまいります。そのために、学力の特定の一部分ではありますが、本調査の結果を有効に活用していきたいと思います。

また本調査からは、児童生徒の学習状況や生活の様子についても振り返る材料を得ることができます。学力との関連性など、ぜひご家庭でもより良い生活の仕方について話し合っていただきたいと思います。

【１】勝山市の平均正答率について

勝山市全体の平均正答率を、福井県および全国の平均正答率とのポイント差(点数差)により比較します。

「高い」＞３　３≧「やや高い」＞１　１≧「同程度」≧－１　－１＞「やや低い」≧－３　－３＞「低い」

	教科名	県と比較して	国と比較して
小学校	国　語　Ａ	同程度	高い
	国　語　Ｂ	同程度	やや高い
	算　数　Ａ	同程度	高い
	算　数　Ｂ	同程度	高い
中学校	国　語　Ａ	やや低い	やや高い
	国　語　Ｂ	やや低い	やや高い
	数　学　Ａ	低い	低い
	数　学　Ｂ	低い	同程度

Ａ問題：主として「知識」に関する問題　　Ｂ問題：主として「活用」に関する問題

【２】各教科の概要について

※昨年度から引き続いている点には（継続）と記してあります。

＜小学校＞

	成　果	課　題
国語	○ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いること ○漢字を正しく書いたり読んだりすること（継続）	▲目的や意図に応じて、根拠となる文を引用して書くこと ▲読み取ったことをもとに、相手に分かりやすく説明すること（継続）
算数	○基礎的な計算を正確に行うこと（継続） ○既習事項を使って計算の仕方を理解し、工夫すること ○２つの整数の最小公倍数を求めること ○２つの異なる資料のデータを表に表すこと ○商を分数で表すこと（継続）	▲問題文を的確に読み、示された数値の意味を理解すること。（継続） ▲基準量と比較量の関係を正しく捉え、割合を百分率で表すこと（継続） ▲示されたデータから外れ値を除いた場合の平均値を求めること。

〇国語では、ことわざの意味を理解して文の中で使うことや漢字を正しく読むことが、特によくできていました。
▲しかし、読み取ったことをもとに、相手に分かりやすく説明することや相手の反応を見て話すことに課題がありました。自分の考えや伝えたいことを的確に話すことは、国語科の学習のみならず、全ての教科や日常生活においても必要な力です。「読むこと」「書くこと」「聞くこと」「話すこと」の４つの技能をバランスよく身に付けられるように指導し、授業改善に取り組みます。
〇算数では、昨年と同様「計算の技能」や「商を分数で表すこと」などに成果が見られました。今年度の調査では、加えて「計算の仕方を理解し、工夫すること」や「最小公倍数を求めること」が大変よくできていました。また、例えば「イヌを飼っている人」「ネコを飼っている人」というような２つの異なるデータを用いて「イヌを飼っていて、かつネコを飼っていない人」はどう表されるか複合的に判断する問題も、よくできていました。
▲基本的な計算の技能がある程度定着している一方で、問題文を的確に読み、示された数値を理解することについて、昨年と同様に課題が見られました。同じく、基準量を１００％として考え、割合を百分率で表すことなどに引き続き課題が見られました。これらの点については、ポイントを絞って復習していきます。また、データを活用して平均値を求める問題では、外れ値を除外して計算するなど応用的な部分に課題が見られました。今後とも一人一人のつまずきに着目し、継続的に学習指導の改善、充実を図っていきます。

＜中学校＞

	成　果	課　題
国語	〇文脈に即して漢字を正しく読むこと（継続） 〇目的に応じて資料を効果的に活用して話すこと 〇目的や意図に応じて材料を集め、自分の考えをまとめること	▲比喩で表現されている内容を理解し、複数の条件に合わせて適切に書くこと（継続） ▲場面や状況に応じた適切な語句を用いること
数学	〇正･負の数を含む四則計算を正確に行うこと（継続） 〇一元一次方程式を正確に解くこと 〇平面上で図形を移動すること 〇面を回転させてできる立体をイメージすること	▲与えられた条件から一元一次方程式を立式すること ▲立体の見取り図を読み取ることや、立体の体積を求めること ▲作図に用いられている図形の性質を理解すること ▲「事柄・事実」「方法・手順」「理由」などを論理的に説明すること（継続）

〇国語では、話すことに成果が見られました。相手に分かりやすく伝えるために資料を活用したり、話すスピードを考えたりする力が身についています。学んだ語句や表現を使って、書いたり話したりする場面を多く設定し、自分の考えを相手に伝える力をさらに高めたいと思います。
▲一方、比喩で表現されている内容を理解し、複数の条件に合わせて書くことに課題がありました。授業の中で、「誰の（何の）」「どのような」様子を表しているのかを確認しながら読む指導を工夫していきます。また、語彙や表現を豊かにするために必要な読書経験を重ね、自ら読書を進める指導を図っていきます。

〇数学では、昨年と同様に四則計算や一元一次方程式を解くことに成果が見られました。平面上で図形を移動させる操作や、面を回転させてできる立体をイメージすることもよくできていました。また、証明における三角形の合同条件に関する理解や、ある四角形が平行四辺形となる条件の理解についても成果が見られました

▲しかし、方程式を解くことはよくできているものの、与えられた条件から立式することに課題が見られました。同じように、図形を移動させるという操作自体には習熟が見られますが、平面上でのある作図にどのような図形の性質が利用されているか説明することに課題があることが分かりました。また、昨年と同様、「自然数」「方程式の解」「増加量」「同様に確からしい」といった数学用語の意味を具体的に理解して判断に生かすことや、事実を的確に把握し手順を考え、理由を説明して判断するというような論理的な思考には、課題が見られました。今後の授業では、身に付けた数学用語や考え方を正しく用いて、論理的な説明をする経験を増やす工夫をしていきます。

【３】児童生徒質問紙について

（１）「良好な点」と「改善したい点」について

生活態度面や全般的な学習態度面の調査結果について、県の平均値と比べて、明らかに上回ったものを中心に「良好な点」、明らかに下回ったものを中心に「改善したい点」としました。

＜小学校＞

良好な点	改善したい点
〇ほとんどの児童が朝食を食べ、一定の時刻に就寝・起床している。 〇将来の夢や目標があると答えた児童が多い。(87%) 〇学校で学んだことを、ほかの学習や普段の生活に生かそうと考える児童が多い。(85%) 〇平日１日あたりのテレビ･ビデオの視聴時間が県･国より短い。（ただし 2 時間以上視聴が 45%いることに注意。） 〇平日１日あたりのゲームで遊ぶ時間が県・国より短い。 （ただし 2 時間以上が 22%いることに注意。） 〇家庭学習に取り組む児童が多い。毎日少なくとも１時間以上取り組む児童は７０％。（ただし、2 時間以上家庭学習する児童は 22%で、国の水準より低い。） 〇新聞を読む児童が県・国よりも多い。 〇外国のことについてもっと知りたいと思う児童が県・国より多い。(78%) 〇地域の行事にほとんどの児童が参加している。(90%) 〇ボランティア活動に参加経験のある児童が多い。(63%) 〇いじめはどんな理由があってもいけないことだと、ほとんどの児童が考えている。(95%) 〇読書が好きと答えた児童が県・国より多い。(74%)	▲自分にはよいところがあると答えた児童が減少した。(昨年 83%→今年 76%) ▲失敗を恐れず挑戦していると答えた児童が減少した。(昨年 85%→今年 75%) ▲平日１日あたりのゲーム時間が長い児童が多い。（３時間以上 12%） ▲平日１日あたりの携帯電話やスマートフォン利用時間が長い。 （２時間以上 10%） ▲家で予習･復習をする児童が減少している。 予習：一昨年 60%→昨年 52%→今年 49% 復習：一昨年 75%→昨年 67%→今年 60% ▲学校のきまりを守っているという児童が県・国より少ない。 （昨年 94%→今年 86%） ▲家の人と学校について話をする児童が県・国より少ない。(66%) ▲授業以外で全く読書をしない児童が２０％いる。

〇規則正しい生活習慣を持ち、テレビやゲームに費やす時間をあまり長く取らず、家庭学習にしっかり取り組む勝山市の児童の良さが表れています。地域活動に積極的に参加し、ボランティア活動経験を積んでいる児童も多く、地域とのつながりの中で健やかに成長している児童の姿が見て取れます。
〇外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと答えた児童が多く、これまで勝山市が行ってきた先進的な英語教育による好影響が見られます。
〇新聞を読んだり読書をしたりする児童の割合が多く、知識の幅を広げたり、社会に目を向けたりするよいきっかけになっていると考えられます。ただ、授業以外では全く読書をしないという児童も５人に１人いるので、今後とも、家庭での読書を推奨してください。
▲小学校ではテレビやゲーム、スマホに費やす時間が全体的には少ないのですが、一部、毎日長時間それらに時間を奪われている児童がいます。家庭でのルール作りやご指導をよろしくお願いします。なお、家の人と学校のことについて話すと答えた児童が減少傾向にあるので、ご家庭での会話を増やすよう心がけてください。
▲また、小学校においては家庭で予習・復習をしている児童がここ数年、減っています。先生に言われたことだけをやって、あまり工夫した家庭学習をしていない児童が増えているとも考えられるので、学校での指導を継続します。
▲自分にはよいところがある、失敗を恐れず物事に挑戦していると答えた児童が減少していることが気になります。自己肯定感の高さはさまざまな活動に影響を及ぼすので、学校でも児童一人一人に目を配りながら、児童が自分の良さや満足感を得られた事柄などに目を向けられるよう、指導していきます。

＜中学校＞

良好な点	改善したい点
〇ほとんどの生徒が朝食を食べ、一定の時刻に起床している。 〇自分には良いところがある・どちらかといえばあると思う生徒が増えた。 （一昨年 74%　→　昨年 65%　→　今年 71%） 〇平日１日あたり２時間以上家庭学習している生徒が県より多い。ただし、昨年度より半減した。 (昨年 53%→今年 27%) 〇土日１日あたり２時間以上家庭学習をする生徒は県・国より非常に多い。(61%) 〇学校の図書室や図書館を利用する生徒が多い。 〇地域の行事に非常に多くの生徒が参加している。 (国：42%　県：57%　市：77%) 〇地域や社会で起こっている出来事に関心が高い。(70%) 〇ボランティア活動に参加経験のある生徒が多い。(74%) 〇総合的な学習の時間に積極的な生徒が多い。(72%) 〇道徳の時間によく考えたり、話し合ったりしている生徒が多い。(84%)	▲将来の夢や希望を持っている生徒が県の水準を下回った。（県 79%　市 66%） ▲１日あたりのﾃﾚﾋﾞ･ﾋﾞﾃﾞｵ視聴時間が長い。 (4 時間~11%　3~4 時間 14%　2~3 時間 21%) ▲家に、テレビやゲームに費やす時間のルールがある生徒が県・国より少ない。 ▲１日あたりの携帯電話やスマートフォンの使用時間が長い。(２時間以上が 27%) ▲家の人と学校での出来事について話をする生徒が県・国より少ない。(68%) ▲家の人と約束した携帯電話やスマートフォンの使い方を守っていない生徒が多い。 ▲家で予習・復習をする生徒が減少している。 予習：一昨年 60%→昨年 60%→今年 26% 復習：一昨年 75%→昨年 83%→今年 52% ▲いじめはどんな理由があってもいけないと答えた生徒が減り、県・国の水準を下回った。（一昨年 96%→昨年 90%→今年 89%）

〇朝食を食べる、一定の時刻に起床するなど規則正しい生活習慣を持ち、家庭学習にある程度しっかり取り組む素直な中学生像が分かります。
〇これまでと同様、地域の行事に参加しているという生徒は県・国と比較してかなり高く、生徒が地域とともにある勝山市の良さが分かります。この良さを生かし、地域に根ざした学校経営をさらに推進したいと思います。
〇勝山市では全小中学校がＥＳＤに取り組んでいるため、総合的な学習の時間に積極的であると答える生徒が多く、それが社会における出来事への関心の高さやボランティア活動への参加へとつながっている様子が伺えます。
▲一方、昨年に引き続き「将来の夢や希望を持っている」と答えた生徒が減少し、県の水準を下回りました。生徒たちの成長にとって、じっくり自己と向き合ったり、夢や希望を思い描いたりする時間を過ごさせることは極めて重要です。私たち大人も生徒たちに向けて夢を語り、生徒たちとともに自己の将来について積極的に考える時間を持てるようにしたいものです。
▲また、小学生と同様に家庭で予習・復習をしている生徒がここ数年、減少傾向にあります。工夫して宿題に取り組むことで予習・復習になるような方法など、勉強の仕方についても各学校で指導を継続しますので、ご家庭でも保護者の皆さまの経験を生かしたアドバイスをよろしくお願いします。
▲生徒の１日あたりのテレビ･ビデオ視聴時間や、携帯電話･スマートフォンの使用時間が長いことが非常に気になります。このことは、「家の人に学校での出来事を話す」生徒が減少していることと深く関連していると考えていいと思います。生徒のメディア利用の仕方には大人によるコントロールが不可欠であり、学校でもスマートルールを利用した指導を継続します。家庭でも家族の会話を増やすことも含めて、引き続きご指導をよろしくお願いします。

（２）正答率との間に関連が見られた質問項目について

約５０問ある生活質問項目の中から、学力調査の正答率と関連が見られた項目について、主なものを１２例まとめました。ぜひ、ご家庭でも話題にとりあげてください。

なお、右端欄内のポイント数は、各項目について「当てはまる」と答えた児童生徒と、「当てはまらない」と答えた児童生徒との平均正答率のおおよその差を、教科ごとに示したものです。

項　　目	教科ごとの正答率の差
起床時刻が定まっている児童生徒は正答率が高い。 **３年連続同じ傾向**	小学算数Ａ　１５ポイント差 小学算数Ｂ　１４　〃 中学国語Ｂ　１７　〃 中学数学Ｂ　１７　〃
ものごとを最後までやりとげ、嬉しかった経験がある児童生徒は正答率が高い。 **４年連続同じ傾向**	小学国語Ｂ　４１ポイント差 小学算数Ｂ　２９　〃 中学国語Ｂ　１０　〃 中学数学Ｂ　１２　〃
自分にはよいところがあると思う児童生徒は正答率が高い。 **４年連続同じ傾向**	小学国語Ｂ　１３ポイント差 小学算数Ｂ　１０　〃 中学国語Ｂ　１４　〃 中学数学Ｂ　１０　〃

友達の前で、自分の考えや意見を発表することが得意だと思う児童生徒は正答率が高い。 **３年連続同じ傾向**	小学国語Ｂ　１８ポイント差 小学算数Ｂ　１２　〃 中学国語Ｂ　１７　〃 中学数学Ｂ　１７　〃
１日当たりのテレビ・ＤＶＤ視聴時間が長い児童生徒は正答率が低い。 **４年連続同じ傾向** **※1 日 3 時間以上の児童生徒と 1 時間程度までの児童生徒との比較**	小学国語Ｂ　２９ポイント差 小学算数Ａ　１４　〃 中学国語Ｂ　２２　〃 中学数学Ｂ　２１　〃
１日当たりのゲーム時間が長い児童生徒は正答率が低い。 **４年連続同じ傾向** **※1 日 3 時間以上の児童生徒と 1 時間程度までの児童生徒との比較**	小学国語Ａ　１７ポイント差 小学算数Ａ　１７　〃 中学国語Ｂ　２９　〃 中学数学Ｂ　２８　〃
１日当たりの携帯電話･スマートフォンの使用時間が長い児童生徒は正答率が低い。 **４年連続同じ傾向** **※1 日 3 時間以上の児童生徒と 1 時間程度までの児童生徒との比較**	小学国語Ｂ　３１ポイント差 小学算数Ｂ　２９　〃 中学国語Ｂ　２２　〃 中学数学Ｂ　２０　〃
家で、学校の授業の復習をしている児童生徒は正答率が高い。 **３年連続同じ傾向**	小学国語Ｂ　１３ポイント差 小学算数Ａ　１８　〃 中学国語Ｂ　１４　〃 中学数学Ａ　１５　〃
総合的な学習の時間に積極的に取り組んでいる児童生徒は正答率が高い。 **３年連続同じ傾向**	小学国語Ｂ　１５ポイント差 小学算数Ｂ　１５　〃 中学国語Ｂ　２６　〃 中学数学Ｂ　２２　〃
授業で学んだことを、他の授業やふだんの生活に生かそうとする児童生徒は正答率が高い。	小学国語Ｂ　２０ポイント差 小学算数Ｂ　２０　〃 中学国語Ｂ　１２　〃 中学数学Ｂ　１０　〃
家の人と学校での出来事について話す児童生徒は正答率が高い。	小学国語Ｂ　２４ポイント差 小学算数Ｂ　２３　〃 中学国語Ｂ　２２　〃 中学数学Ａ　２０　〃
テレビを見る時間やゲームをする時間などを家の人と決めている児童生徒は、正答率が高い。	小学国語Ｂ　２１ポイント差 小学算数Ｂ　２６　〃 中学国語Ｂ　１０　〃 中学数学Ｂ　１３　〃

〇ここ数年の分析から、教科の正答率と関連があると思われる質問項目は、年度が変わってもかなり共通していることが分かってきました。

〇例えば、「総合的な学習を肯定的に捉えている児童生徒」はＡ･Ｂ両問題で正答率が高い、という傾向

が今年度の調査からも明らかになりました。ＥＳＤの視点を生かした環境学習やふるさと学習で身に付けた“学習へ向かう姿勢”や“考える力”などが、学習全体に良い影響を与えているのでしょう。
〇また、「家でテレビやゲームに向かう時間が長い生徒は正答率が低い」という傾向は、その分家庭学習がおろそかになっているのだろうと想像できるため、納得できます。
〇一方で、「ものごとを最後までやりとげて達成感を味わった経験のある児童生徒」や、「自己肯定感の高い児童生徒」「友達に自分の意見を発表するのが得意な児童生徒」の正答率が高いことには、注目していく必要があると思います。達成感や満足感、自己肯定感を感じることができる心の安定度が、学習成果にも大きく影響を与えていると考えられるからです。
〇なお、「家の人と学校での出来事について話す」「テレビを見る時間やゲームをする時間などを家の人と決めている」児童生徒の正答率が高いという傾向がはっきりと見えました。ぜひご家庭での取組に役立てていただきたいと思います。

【４】今後の方針について

（１）学校で取り組むこと　※以下のもの以外にも、各校の方針があります。

＜ア＞学級集団の育成

児童生徒それぞれが自分の居場所を見いだせるように学級集団を育成するという視点を重視し、児童生徒が学び合い、高め合うような学級集団の状態を作るよう工夫します。

＜イ＞ていねいな教育、鍛える教育の推進

教員が児童生徒一人一人と向き合って、基礎的･基本的な内容の確実な定着を図り、見通しと振り返りのある授業を心がけます。また、児童生徒が協力して課題を解決したり、教え合ったりする場面を積極的に取り入れ、協働して学びながら様々な課題に挑戦していけるよう工夫します。

（２）ご家庭にお願いしたいこと

＜ア＞規則正しい生活習慣の定着

生活リズムが崩れるきっかけは夜更かしと、不規則な食事です。決まった時刻に朝食や夕食をとること、就寝時刻を決めて、早寝早起きを心がけた生活をすることをお願いします。

＜イ＞テレビやゲーム、携帯電話、スマートフォンに費やす時間の約束

市内の全小中学校が「スマートルール」を定め、家庭と連携した節度あるデジタル機器の利用指導を行っています。これには各ご家庭の協力が欠かせません。児童生徒が賢い使用者として成長していけるよう、大人がよいお手本を示しながら、導いてあげてください。

＜ウ＞家族の団らんを大切に

家事のお手伝いをしている時や食事のテーブルを囲んでいる時などに、家族で話をしましょう。互いの話を聴き合い、認め合うなどのあたたかなふれ合いが、児童生徒の心の成長には不可欠です。自己肯定感の強さが児童生徒の学習意欲を支える要因ともなります。

【５】むすび

ここ数年の全国学力調査における勝山市の状況を見ると、小学校では市の平均正答率が国語・算数ともに年々改善し、平成２９年度は県平均レベルを維持できています。学習内容によっては県の水準を大きく超えた成果をあげているものもありますので、今後ともしっかりと基礎学力を身につけられるよう、授業改善を図ります。

中学校においてはこれまで、国語・数学ともに市の平均正答率が県平均を上回り、かなり高い水準で推移してきましたが、平成２９年度は残念ながら両教科で県の水準を下回りました。中学校ごとに生徒の学習状況を分析し、実態に合わせた改善策を講じてまいります。

しかしながらこの全国学力調査では、学校教育の一部を調査したに過ぎません。子どもたちには、多様な面での力を養い、成長していって欲しいと考えます。ただ、将来、社会人として幅広く活躍するには、小中学校での学習内容を十分習得することが重要な基礎になっていきます。そうした観点から、この学力調査の結果を踏まえて、今後さらに効果的な学習の進め方を研究し、一層の学力向上に努力してまいります。

保護者をはじめ市民の皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。